

花きの県別生産出荷概況(10月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	10月出荷見込み 千本		主産地	10月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
小ぎく	秋田県	34 (115%)	小雨、寿光、精ことひら、 精なぎさ、みのる、玉姫他	494	227	JA秋田やまもと JA秋田みなみ JA秋田しんせい JA秋田おばこ JA秋田ふるさと	25	50	25
	茨城県	143 (100%)	精やすらぎ、花舟、 あずさ、祭典、天露、 あかり、ホテル等	250	190	笠間市 石岡市 土浦市 かすみがうら市 他	35	40	25
	沖縄県	250 (102%)	秋芳 つばさ	33 (100%)	12 (95%)	名護市 沖縄市 八重瀬町 糸満市	0	0	100
トルコぎきょう	北海道	2756 (98%)	ピッコロサスノー ジャスニーホワイト クラリスピンク 海ほのか	5,623 (101%)		由仁町 JAそらち南	40	30	30
	秋田県	12 (110%)	ロジーナシリーズ ピッコロサシリーズ セレモニーシリーズ 他	729	335	かづの、 秋田しんせい、 秋田おばこ、 秋田ふるさと、 こまち、うこ	40	30	30
	山形県	28 (90%)	ボヤージュシリーズ ピッコロサシリーズ ロジーナシリーズ 他白八重、他ピンク八重、他黄八重、 一重	626 (80%)	250 (80%)	JA新庄市、 JA新庄もがみ、 JA山形もがみ、JA鶴岡、 JA庄内たがわ、 JA庄内みどり、 JA山形市 ほか	35	35	30
	茨城県	10 (100%)	ロベラピンク イエローダンス コレゾライトピンク パティオスノー	60	45	つくばみらい市 石岡市 結城市 他	30	35	35
	長野県		レイナホワイト パレオピンク パステル紫 パステルピンク	1,700 (95%)	650 (100%)	信州諏訪 上伊那 ちくま	50	30	20
	熊本県	19.4 (97%)	ミヨシ系 サカタ系 八江系など	524 (107%)	85 (188%)	熊本市 菊池 球磨 など	30	30	40
	大分県	6 (100%)	レイナホワイト Mioシリーズ 他品種	60 (100%)	20 (100%)	玖珠九重 日田 竹田	20	30	50
宮崎県	2.9 (104%)	コレゾライトピンク なみだ	50 (129%)	7 (129%)	日向	25	40	35	

バラ	茨城県	11 (98%)	サムライ、アヴァランチェ、 アイリーン、パレオ、 ローテローゼ、ノブレス、 ティネケ 他	350	260	石岡市、土浦市、 かすみがうら市、 つくば市、結城市 他	30	35	35
	群馬県	15.2 (97%)	アヴァランチェ サムライ 他多数品種	900 (99%)	740 (99%)	前橋市 利根沼田 甘楽富岡	25	40	35
	山梨県	3.8 (100%)	ローテローゼ サムライ 等	310 (97%)	300 (100%)	笛吹市(御坂町)	35	35	30
	静岡県	43 (97%)	サムライ アヴァランチェ リメンブラン シンディ	1,500 (95%)	1,300 (95%)	JA掛川市 JA大井川 JAしみず JA遠州夢咲	30	35	35
	大分県	8 (100%)	Mシリーズ Jシリーズ 他	500 (95%)	200 (95%)	九重飯田 玖珠九重 山香	20	40	40
アル スト ロメ リア	北海道	706 (78%)	オルガ イレーネ メイフェア アバランジェ	4,653 (112%)		新篠津村 JA新しのつ	25	35	40
	長野県		レベッカ アバランジェ ハニーソフィア パスカラ	900 (100%)	350 (99%)	上伊那 信州諏訪 松本ハイランド 佐久浅間	40	30	30

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小ぎく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田しんせい: やや前進気味。10/5～10がピークで日量50～100ケースの見込み。長雨の影響で、丈の短いものやボリュームにかけるものが多くなる。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>彼岸向けに各産地中旬より出荷増となった。色目によってはの前進や遅れがあり、月の前半に関しては多目の入荷となった白小ぎくの販売が特に苦戦するも、彼岸期間中に関しては安定販売となった。彼岸期間後に関しては、やや遅れのあった黄小ぎく中心にやや販売苦戦の結果となった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部圃場で約1週間程度前進化の見込み。</li> <li>・一部圃場でオオタバコガ、ハダニ類の発生が見られる。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 岩手県に関しては中旬辺りより減少。その他産地に関しては、月を通してバランスが崩れ、日々の販売において足りない色目に関して引き合い強めとなる。</p> <p>FAJ 東北減少し、全体に数量落ち着く。需要も通常に戻り、業務中心の取り引き。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早生系の秋芳とつばさの出荷開始予定。</li> </ul>	<p>東日本板橋花き 現状高冷地中心ではあるが、10月後半ごろから暖地に切り替わる。</p> <p>世田谷花き 入荷量次第だが、需要も減るため、堅調な動きか。下位等級のものは苦しいか。</p>
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒くなるにつれ、出荷量が減少するが、昨年の10月よりは残量が多い。</li> <li>・生育状況は順調である。</li> </ul>	<p><b>現状</b></p> <p>各産地昨年のような大幅な前進開花はなく、ほぼ通常期の出荷状況となっている。岩手、長野、福島、秋田、北海道を中心に昨年に比べると少な目ではあるが、品質も良く安定した出荷となった。販売面ではプライダル、お彼岸需要を中心に活発な取り引きとなった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと: 出荷にピークはなく、日量450ケースくらいで10月いっぱい続いていく見込み。生育は順調。オオタバコガ、スリップス等の徹底防除に努めている。</li> <li>・こまち: 昨年のような前進もなく、生育は順調。9月下旬に一旦量は減るが、10月上旬からまた増え始め、10日前後にピークを迎える見込み。日量300ケースくらい。</li> <li>・うご: 9月中下旬をピークに10月第3週目には出荷終盤となる。</li> </ul>	<p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 主力産地の福島、秋田が最盛期となり安定した入荷が見込まれる。また、西南暖地の静岡、福岡、大分も出荷開始が見込まれる。販売面に関しては、プライダル需要を中心の取り引きとなる。</p> <p>FAJ 静岡など暖地の出荷が始まる。引き続き宴会中心に好調な取り引きが続く見込み。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月出し作型の生育は、9月が記録的な高温で経過した前年より遅く、出荷は極端なピークがなく継続する見込みである。</li> <li>・出荷量は、作付面積が前年よりやや少なくなっていることと、極端な開花期の前進がないことから、前年の80%程度と見込まれる。</li> <li>・草姿バランスは良好であり、病害虫の発生はほとんどなく経過している。</li> </ul>	<p>東日本板橋花き 中間地、関東近在の出荷始まる予定だが、数量は天候次第。</p> <p>世田谷花き 暖地からの出荷も始まり、各色潤沢。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷ピークは上旬～中旬の見込み。</li> <li>・夏季高温の影響で平年より生育が遅れている。</li> <li>・一部圃場でアザミウマの被害が認められる。</li> <li>・一部の圃場ではボリューム不足。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋作型の信州諏訪、上伊那中心の出荷となる。生育はやや前進傾向となっているが、例年どおり出荷ペースに戻ってきておりダラダラとした出荷が続く。2番花の出荷も相場次第では10月いっぱい続く。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は概ね順調ではあるが、高温のため2～3週間前進化している産地もあり、各産地10月上旬順次出荷される。長雨の影響はなく病害虫もないが、高温・乾燥気味で推移しているため、草丈が短い産地が散見される。出荷量は、前進化している産地があるため、昨年より増加する見込み。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明珠は源治亜の出荷者が圃場切り替えとなるため一旦減となるが、10月上旬より再開予定。中旬より各産地出荷開始、徐々に数量増となる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高冷地(椎葉)からの出荷。日量は80～100ケース程度。定植後の高温の影響で草丈が十分でない生産者も見られ、規格はL中心。</li> </ul>	

バラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季高温の影響で、平年より出荷ピークが遅れる見込み。</li> <li>・高温の影響により下位等級中心の出荷になる見込み。</li> <li>・一部圃場でオオタバコガ等の発生が見られる。</li> </ul>	<b>現状</b> 高温障害による草丈の短さ、秋向けの作付けの前進開花。上旬は非常に入荷量少なく、高冷地、暖地とも下旬から入荷がまとまってきた。輸入品は南米系の価格が高騰しており、大輪系が昨年に比べ少ない入荷。インドなど比較的、安価な商材も為替の影響で輸入量が減少。下旬にかけてケニア産などを多く、各商社が輸入する見込み。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は夏場の高温により秋の出荷量が落ちたため、産地によっては給液管理の改善や株管理などの対策を行っている。また、昨年より高温の期間が短く推移したため、茎は太く、ボリュームがあり高品質の切り花が出荷される見込み。</li> </ul>	<b>見通し</b> 大田花き 端境期をぬけ、高冷地、暖地とも入荷量は増加に向かう。夏場を通り過ぎた苗のため、草丈が短い可能性がある。輸入品に関してはケニア産中心の荷姿となり、各色潤沢な入荷が見込まれる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は概ね順調。</li> </ul>	FAJ 引き続き宴会中心の取引続く。東北減少し、愛知や茨城など暖地徐々に出荷増量。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上旬は40～50cmクラスの下階級中心の出荷となるが、品質は中旬以降に安定してくる見込み。面積減から昨年度よりも出荷本数は減少の見込み。</li> </ul>	世田谷花き ステムも徐々に伸び、数量も増加の見込み。連休のブライダルに期待。
アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月改植株の出荷に伴い、新たな品種の出荷が始まる予定。そのため、徐々に出荷量は増加していくと思われる。</li> </ul>	<b>現状</b> 夏場の高温の影響を受けて、各産地数量は横ばい。主産地の愛知、北海道はピンク、白、黄中心の入荷となり、業務需要中心に引き合いがあり、安定した相場展開。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温の低下とともに秋出しのアルストロメリアが本格出荷となってくる。生育は順調で発色も良く、徐々に増加してくる見込み。</li> </ul>	<b>見通し</b> 大田花き 10月には愛知、長野の数量が増加してくる見込み。新品种の出荷も始まり、各色バリエーションが増えてくる。北海道は減少。 335,000本 @100
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温の低下とともに秋出しのアルストロメリアが本格出荷となってくる。生育は順調で発色も良く、徐々に増加してくる見込み。</li> </ul>	FAJ 引き続き、山形、長野中心の入荷。徐々に入荷量は増え、量がまとまってくる。
		東日本板橋花き 愛知、青森、福島中心の入荷。業務中心の動き。
		世田谷花き 据え置き株中心の出荷だが、増加の見込み。業務の動きも強くなる見込み。